男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 装軌式トラクタ	現地の通称: クローラトラクタ

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☒ 耕耘用 ☒ 調製用
- ☐ 畜力用具 ☒ 乗用式 ☒ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☒ 管理用 ☐ 機素
- ☒ トラクタ具 ☐ 定置式 ☒ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. D011

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: Cleveland Tractor Co. Ohio

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年 1918年発売、1921年頃購入、農場利用、 ？年記念館発足時に標本化

使用目的・使用方法等

装軌式トラクタは、不整地でも無限軌道のクローラで走行性能が高いため、一般に耕起・砕土整地など大型農機具の牽引とベルトプーリによるベルト駆動に使われる。わが国では、第１次大戦時に欧州の畑地が荒らされ、日本の農産物が多数輸出されて農業の好景気を迎えたため、突如として石油発動機、動力耕耘機、ハンドトラクタ、鉄車輪トラクタが輸入され、第１期の機械化時代となった。農用トラクタは、1916(大正5)年に北海道斜里町の三井農場が, 米国製の半装軌式ホルトトラクタを、1918年に札幌郡篠路村谷口農場が米国製鉄車輪型ケーストラクタを導入したのが嚆矢とされる。

利用経過収集記録意義等

1921年頃購入で装軌式ながら丸ハンドルで装舵できる珍しい機種である。当農場では、耕起・砕土整地など大型農機具の牽引に始まり、道路整備、造材作業の木材搬出、そして購入動機の主因と想像されるデントコーンのサイロ切込み時にエンシレージカッタの駆動等に使ったと考える。

仕様書_解説等

クリーブランド社製、水冷４気筒ガソリン機関、出力12～20Hp/1200rpm, 丸ハンドルでプラネタリギアによる操舵構造、走行速度1～3.5Mile/h

右に全体図

ボンネット板は、1985年にはあったが、2014年には撤去されている。逆に綺麗に管理されている。

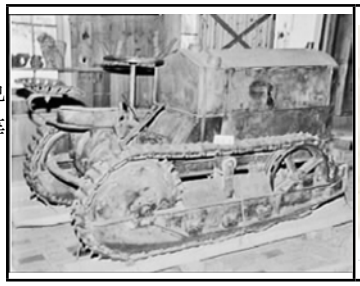
全体図1-2：標本2014年撮影

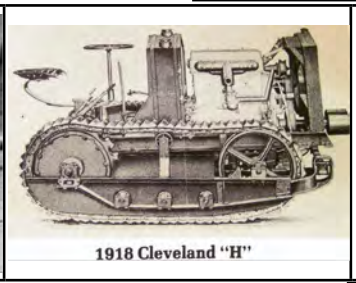
関連図1：標本1985年撮影

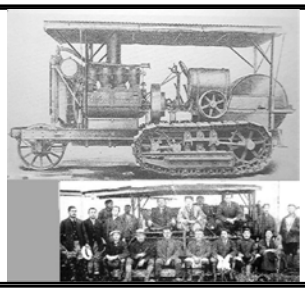
2：クリーブランドH型カタログ写真

4：ホルトトラクタと導入時の記念写真

外観特色関連図等







資料の所在 公開展示室

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

台帳管理番号 ・ D011